

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

法 國  
奇 法

東 遊 記 後 篇

三

特 別  
13  
3983  
8

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

143  
3983  
8



東遊記後編卷之三

四五六谷

南谿子著

四五六谷ハ越中飛騨信濃三國の首入り込る谷あり其は  
 神通川と逢ふ又其支流と名づくのあり小ま深きうして  
 奥と名づく者なり其を幸ひ年飛騨舟津の人ありけ谷の奥深  
 んとく三日の糧と用意して渡り川小まのいりか小ま食を  
 之しとけりぬまは魚成物り食す獲救日のる入り  
 小ふく健ひし者の魚と物り居る形とありける小是形のはお  
 かり大小鱒まきと名づくけりるに魚成物り居る者も  
 あり小まわたり人小ま居る者もあり小ま愛して忠し

東遊記後編卷之三

<99-1008>



るるりありありと云はしむる人たふさず一擧に在  
るを本意のいふなり

北極星

北極星北極のより下りて地球の南極から半の地を  
真の北極五里程と隔れる時と天を臺度と遠くぬ  
北極星の度数を知り居るは西の南極より又北の  
知る醫術を西の氣候と云ふればその西の陰陽の  
つく守ぬる疾病も亦さすありてあまた人天を  
人萬國の度程と云ふは又日本も亦さすは西の  
あるやそのあり余と隔れるのけりて然るるる北極の度

程と測式と後日の教の二種と云んと旅中にも用ひて測量の  
の器とす不変の器とす北極星の度程と云ふは北極星の  
南の極より北の極星の度を半の半と云ふは北極星の  
四十度半の奥州津波旋の國四十度四分の同度東四十度  
七分の同三馬屋四十度四分の南部盛岡の四里北極星と云  
ふありて北四十度七分の緯線と云ふは日本北極の地ありて  
北極星の度程と云ふは北極星の度を半の半と云ふは北極星の  
井ノ口へのより北極星の北極星の北極星の北極星の  
北極星の北極星の北極星の北極星の北極星の北極星の  
北極星の北極星の北極星の北極星の北極星の北極星の



るゆりともつて是れ大ははたけりり物たまりとも奇怪の事とて奉  
信園子の創記とて方々小ま申小或人知事なり船その海を  
しふ在海及の沖津の沖とて海舟一むらの事をも慮り  
海舟とて舟舟の船に大驚き見る船のひきとてきん  
かるとはあり意不整な切と焼べとと申申れ今この事  
頭取衆切ある人お梅小息氣を小舟舟うくく遊遊  
きももちちおぬきまきとと我もきつり是も亦然り  
申へ有志の事とて是まは驚恐の事ら必雷の雲す  
ほ成たりゆしおの伏とも西ハ雷なること由日本とて  
龍と雷のお意とてるものと申す余を所河棠流の工キテ

イルとゆりてまじりりのはん瓜菜碗小入きけ菜碗の形は色色  
と車以まりまき菜碗のよふ指成近付しむまは自然不逆を  
登る勢ひもろくこ意とて物行るまは登り申す一と氣の  
よふお意とて申小意の中くこどもかくのごとく況マ天地の  
ありとも自然も亦これお意とては登龍のごとく事とてなりと  
ハ云へかへど

黄鐘調

撞鐘とて若鐘の調子小珠るゆくとと兼好の徒然草  
大坂の天王寺の六時堂の鐘ハを鐘乃調りたることとて  
余と天王寺のゆたきとて撞鐘撞の調子ありとてとてす又

一、年あはれし、播州の加田山落林寺より律中、  
 とおと小境成中、此の事あり、あはれ記のせり、是も聖  
 徳太子の時に、後、今度又越前、敦賀の常宗、  
 一、又、後、尋常のおり、これ、今、  
 見れば、新羅の信、定、今、  
 朝鮮の文、豊后公の、大谷形部、此地、小、  
 一、時、新羅、  
 其銘文曰

大和七年三月日、普州蓮池寺鐘成内節傳  
 合へ金七百七十三、近古金四百九十八、近

加入金百十近	成典和上	忠門法師	緋糸甜法師
上座	則忠法師	都乃法昧法師	
郷村主	三長手	朱蕉吹奈	
作報舎	室清軍師	龍碎軍師	
史六	三忠舎知	行道舎知	
成傳古	安海哀大舎	哀大舎	
節州抗	皇龍寺	覺明和上	

朝録文、て、  
 事、  
 撞

入あふ必字べーと心ひふ言書石の香よさうめが獄や登  
まゝくたよ入うそ世等ふゆりひりーらバ入紙さくく入種の  
とちときろがす跡<sup>せんね</sup>いつくさきまうーとろくけろくろふは種<sup>し</sup>  
字<sup>わろ</sup>成穿てゆるの若種<sup>わろしほ</sup>の種おをんきああるべー種と種<sup>いのち</sup>種<sup>のち</sup>  
ろろ字成穿てく穴の大小小とろて種<sup>し</sup>子<sup>し</sup>は種<sup>し</sup>すべー若種<sup>し</sup>ふ  
合とろふまうどく穴て廣<sup>ひろ</sup>先<sup>ひ</sup>若種<sup>わろしほ</sup>の字<sup>し</sup>中<sup>ちゆう</sup>とて穴とやうじん全<sup>ぜん</sup>  
く種<sup>し</sup>て若種<sup>わろしほ</sup>小種<sup>せうしほ</sup>んと欲<sup>ちつ</sup>を六<sup>ろく</sup>粒<sup>りゅう</sup>十<sup>じゅう</sup>道<sup>だう</sup>種<sup>しゅう</sup>改<sup>かい</sup>まる<sup>まる</sup>とろこ<sup>こ</sup>字<sup>し</sup>年<sup>ねん</sup>小  
まら年<sup>ねん</sup>ハ種<sup>し</sup>ろるべー彼<sup>あ</sup>西<sup>せい</sup>園<sup>えん</sup>寺<sup>じ</sup>の種<sup>し</sup>成<sup>じやう</sup>幾<sup>いく</sup>な<sup>な</sup>を種<sup>し</sup>ろふれーと  
初<sup>しう</sup>もや全<sup>ぜん</sup>く種<sup>し</sup>んとあひー原<sup>げん</sup>ろるべー流<sup>りゅう</sup>ろ穴<sup>けつ</sup>成<sup>じやう</sup>穿<sup>せん</sup>た<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>とそ度<sup>ど</sup>  
あしよく種<sup>し</sup>べーは<sup>は</sup>も<sup>も</sup>は<sup>は</sup>古<sup>こ</sup>代<sup>だい</sup>種<sup>し</sup>ろーと穴<sup>けつ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ハ<sup>は</sup>皆<sup>みな</sup>必<sup>かならず</sup>若<sup>わろ</sup>種<sup>しほ</sup>の

油<sup>あぶら</sup>子<sup>こ</sup>るるべー尾<sup>お</sup>上<sup>じやう</sup>カ<sup>か</sup>田<sup>でん</sup>山の種<sup>し</sup>け<sup>け</sup>若<sup>わろ</sup>種<sup>しほ</sup>の種<sup>し</sup>ろる<sup>る</sup>古<sup>こ</sup>人<sup>にん</sup>必<sup>かならず</sup>成<sup>じやう</sup>用<sup>りゆう</sup>の  
一<sup>いつ</sup>種<sup>しほ</sup>とろんえろそとそ<sup>そ</sup>世<sup>せい</sup>を<sup>を</sup>傍<sup>はう</sup>度<sup>ど</sup>律<sup>りつ</sup>の半<sup>はん</sup>石<sup>せき</sup>東<sup>とう</sup>園<sup>えん</sup>まあろろ  
ては<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>とそ<sup>そ</sup>日<sup>にち</sup>又<sup>また</sup>種<sup>しほ</sup>ハ<sup>は</sup>若<sup>わろ</sup>種<sup>しほ</sup>小<sup>せう</sup>種<sup>しほ</sup>と<sup>と</sup>わ<sup>わ</sup>ろ<sup>ろ</sup>だ<sup>だ</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>ど<sup>ど</sup>  
とそ<sup>そ</sup>み<sup>み</sup>ら<sup>ら</sup>ふ<sup>ふ</sup>種<sup>しほ</sup>ろ<sup>ろ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ふ<sup>ふ</sup>種<sup>しほ</sup>ろ<sup>ろ</sup>穴<sup>けつ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>奇<sup>き</sup>妙<sup>めう</sup>く<sup>く</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>とそ<sup>そ</sup>  
とそ<sup>そ</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わろ</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ゆる<sup>る</sup>紙<sup>し</sup>志<sup>し</sup>ろ<sup>ろ</sup>ん<sup>ん</sup>とそ<sup>そ</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>や<sup>や</sup>種<sup>しほ</sup>  
か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>日<sup>にち</sup>本<sup>ほん</sup>中<sup>ちゆう</sup>小<sup>せう</sup>若<sup>わろ</sup>種<sup>しほ</sup>の種<sup>し</sup>お<sup>お</sup>け<sup>け</sup>う<sup>う</sup>とそ<sup>そ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>  
種<sup>しほ</sup>成<sup>じやう</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>ろ<sup>ろ</sup>ふ<sup>ふ</sup>又<sup>また</sup>穴<sup>けつ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>種<sup>しほ</sup>と<sup>と</sup>お<sup>お</sup>ろ<sup>ろ</sup>と<sup>と</sup>ろ<sup>ろ</sup>る<sup>る</sup>一<sup>いつ</sup>余<sup>よ</sup>と<sup>と</sup>尾<sup>お</sup>上<sup>じやう</sup>  
は<sup>は</sup>種<sup>しほ</sup>と<sup>と</sup>ろ<sup>ろ</sup>け<sup>け</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>穴<sup>けつ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>へ<sup>へ</sup>一<sup>いつ</sup>若<sup>わろ</sup>種<sup>しほ</sup>の種<sup>し</sup>と<sup>と</sup>  
カ<sup>か</sup>田<sup>でん</sup>の種<sup>しほ</sup>成<sup>じやう</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>種<sup>しほ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>種<sup>しほ</sup>子<sup>こ</sup>の若<sup>わろ</sup>ふ<sup>ふ</sup>せ<sup>せ</sup>し<sup>し</sup>事<sup>こと</sup>成<sup>じやう</sup>悟<sup>ぶ</sup>ろ<sup>ろ</sup>と<sup>と</sup>今<sup>いま</sup>  
う<sup>う</sup>ろ<sup>ろ</sup>は<sup>は</sup>種<sup>しほ</sup>成<sup>じやう</sup>揚<sup>やう</sup>と<sup>と</sup>人<sup>にん</sup>字<sup>し</sup>成<sup>じやう</sup>穿<sup>せん</sup>た<sup>た</sup>ハ<sup>は</sup>若<sup>わろ</sup>種<sup>しほ</sup>の種<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る



いしをまじりていふなり。又或人の指州長柄村爲満寺の鐘古き  
 鐘ありしに、是れ福を以て界れど、いまだ見とて、調はらる  
 や、又一とせある神道志の神前、の鐘は、双調乃おきり、とて、法方  
 赤き、此れも、調ふ、小針、の鐘あり、一、余、かき、人、新、小、鐘、と  
 辨、くら、小、数、十、度、辨、は、一、く、ま、は、ひ、の、双、調、の、音、中、五、八、叶、に、ざ、り  
 づ、か、む、し、く、あ、く、く、双、調、小、を、と、鐘、は、唐、多、減、ら、一、く、双、調、小、合、と  
 ころ、是、亦、七、又、被、辨、小、元、成、穿、て、り、ゆ、と、お、は、り、り、一、余、亦、辨、を  
 一、は、く、く、ら、ひ、く、と、る、一、ま、ち、あ、ら、る、を、及、た、ま、る、の、鐘、を、ゆ、め、く  
 古、鐘、亦、あ、く、は、ま、す、く、か、り、南、岳、の、鐘、と、か、ん、く、唐、古、南、北  
 朝、の、北、燕、の、お、く、と、律、真、の、音、鐘、あ、り、と、感、ん、一、又、を、こ、

以、昔、鐘、調、の、鐘、は、辨、く、り、く、数、十、な、小、の、ひ、て、を、法、と、て、り  
 鐘、亦、亦、も、あ、ら、る、ま、法、か、ま、り、と、り、り、一、ゆ、ハ、別、小、音  
 律、の、去、小、あ、り、り、た、ま、は、此、記、の、畧、と、り

篆本

坂、上、是、則、の、和、亦、小、篆、亦、や、鐘、を、を、小、ま、あ、ら、る、と、り、ま、く、の、ま、り  
 や、一、く、く、ん、え、く、あ、ら、ぬ、者、り、お、り、の、一、一、篆、亦、一、い、ま、作、鐘、は、  
 亦、亦、亦、亦、亦、あ、り、な、り、や、か、ん、え、り、り、無、い、り、り、か、る、源、氏、お  
 語、振、り、の、篆、亦、亦、の、亦、亦、一、部、の、鐘、を、と、て、は、亦、亦、亦、と、ん、鐘、を、先  
 一、一、一、一、其、事、鐘、り、奇、怪、亦、亦、亦、一、く、く、一、く、一、く、一、く、一、く、一、く、  
 一、一、一、一、居、一、が、佐、州、亦、亦、一、一、一、一、の、あ、り、の、一、一、一、一、東、路、一、

乃東曾街道の澤小妻子と云あり其妻子の澤より本若  
街道と雖も同道小入る是れ飯田の城へ出る街道也  
其百十里津山遊谷計る想者の乃多小細乃之蘭廣水  
杯小至所成るく是等谷といふ所ありは是等谷といふ所  
くは是等谷と云ふ所あり本若時と云ふ所あり時のもよなり  
けき王平勝負平杯いふがくの平坦の元あり相け是  
谷の乃ろ右の方りを流く大なる谷なり 飯小谷川の音  
すゆ其谷成お積りて向ふ雜樹深ありまひ成りたる  
しあり其し乃七八分目ともなる程は是の木のさくたる  
そ本秀てんゆきもこの木は倍くたの字ふ本葉よ

乃小茂りたる本若をきくハ葉周山ある若木の志あり  
るも此より其木の木も若木と云ふ新樹成り申小  
格ふ小まきと云ふは是れすくんゆ是即むりより名もふ  
是系ありのなもきあかぬ白くあるもの其木のふ  
はくはる時ハ新もすくと品もこの木はさあしよりえ  
るごく小なりと云ふもあふ若木ありと云ふも  
くも遠まぬと云ふはさるがうあて実の母は源氏  
お傍のぬきもあひありはるやと云ふは若木のなるふ  
よりハ廿丁斗と隔りたり取の百餘ののひんくハ天照  
大神の乃母よりなる神本なりと云ふ又余もあて者の

乃東曾街道



死なむ一人の死さるゝやと再び逢ふとて毎夜物あき通  
 ねくもろ余もあつて通夜を小座も度々い堂ふあつて  
 るかまはばおぼろしく燈のまろと御くとい人親とさふ  
 いたて願念佛の舞幽小座をさつて侍侍り初の福人とい  
 くまろあびよが初夜とさきほやとあつて夜まもるあ  
 中らつとめく度ふくあやう數十百人ふるぶ是頃亡者の集  
 あつとさ初夜刻とられ小座初夜毎の用帳あつて寺僧達の銀  
 くらも紙にて戸帳と開くせつてさて用帳を夜はさぬ  
 燈火の親かかのどろ一人も座く堂は度々い運寂とてい  
 るをわいけ付伝心の人を候と流るる余も法方の伝心小

小座法セつてけ小座とあり毎夜かくのどろく流くの  
 素張とらといふ事とあつてさしよもあ用帳の時刻より  
 してと堂は満月の素張あつて又戒壇えらつといふ  
 あつと小座の山月の下とさつとあ戒壇の中小入つと  
 園中小座とさつとさつと先きの傍薬座して先き立件の宛まら  
 三遍廻りくあつとさつとさつと唱さつとけ戒壇めぐりの時  
 伝心無き者とさつとさつとさつとあつといひ侍りけ寺の  
 由る小門前の町家と諸事杯大なるあまろへしてさつと  
 あり町やと





の二月まゝいへ馬皆氷のこゝに凝りてかゝりておのゝ半あり  
 下の夜宿上の夜宿とあるに皇の所なるは氷と氷のこゝに文書の遺  
 りたる有終一里小ありては便利なるの道にまゝに置かれし  
 ほと車までおむりて氷をきて水を小あつてはまゝありて  
 不思議なるや向ひて小の所小神ありてはまゝありて神海  
 へまゝありては氷をきて水をとて又神ありてはまゝありて  
 ちり雪とありては氷をきて水をとてはまゝありては神ありては  
 なるこゝにやりの所ありては一夜湖とある音にておのゝ  
 こゝに氷のこゝに氷のこゝに氷のこゝに氷のこゝに氷のこゝに  
 引海りたるこゝに氷をきて水をとてはまゝありては神ありては

神ありてはまゝありては氷をきて水をとてはまゝありては神ありては  
 けるありては氷をきて水をとてはまゝありては神ありては  
 属とありては氷をきて水をとてはまゝありては神ありては  
 の所のありては氷をきて水をとてはまゝありては神ありては  
 氷の中にも温泉ありてはまゝありては神ありては  
 温泉の湧つるありては氷をきて水をとてはまゝありては神ありては  
 何れ又下の夜宿の拜殿の板壁のぬりてはまゝありては神ありては  
 の所とありては氷をきて水をとてはまゝありては神ありては  
 せしむるありては氷をきて水をとてはまゝありては神ありては  
 せしむるありては氷をきて水をとてはまゝありては神ありては

高野一寺、石置儀好くあり、東海及小ある天竺川の源此  
流宿好く流き、やむおぼされ、るを、鷹く魚、驚まきくして  
けり、利益あるなり

壽岡慈惠

天明卯年乃凶作小奥州津波南部最饑饉して足腰のきり  
者四方小走りて食物とむし羽州秋田海西しりなれば饑人  
の多る事、救万く秋田の地と亦凶年のまかまに救ひ是る事あ  
り、これに饑人溢れ、又壽岡小舟の路に饑人多く押あひ、  
やく食とるる者、いそまら、る地まで饑死とら小依て壽岡  
の人も各身との限り力と尽して救ひ、事人、中、小、い、こ、て、あ

りし小舟、い、い、鈴、本、今、志、出、り、し、者、中、ハ、壽、岡、の、中、気、い、と、動  
し、考、ま、う、り、つ、か、の、行、と、か、る、り、く、を、さ、い、は、役、並、と、り、く、自、ら  
耕、他、一、と、後、世、一、ら、い、く、元、身、志、想、の、深、く、け、る、を、身、代、の、限、り  
出、し、饑、人、地、救、ひ、と、り、に、松、島、義、録、死、と、る、小、志、の、い、ど、兩、坊  
の、田、畑、小、諸、方、を、し、り、ま、と、し、く、賣、拂、ひ、と、り、方、の、限、り、救、ひ  
る、方、を、賣、り、又、公、ま、さ、と、り、ま、く、自、分、の、衣、被、の、れ、と、ち、り、賣、  
拂、ひ、て、救、ひ、と、り、小、時、れ、衣、被、後、小、ゆ、ら、の、を、お、ま、り、ま、り、づ、り、た、は、  
け、ゆ、ら、坊、一、金、一、か、或、日、け、ゆ、ら、の、衣、被、も、賣、り、て、救、り、ん、と、り、今、志、あ  
り、は、す、と、り、女、ハ、婦、女、衣、被、と、り、と、愛、と、り、と、の、あ、り、小、志、と、り  
賣、り、て、饑、人、地、救、り、ん、と、り、小、舟、の、事、と、り、結、ま、り、づ、り、男





乞と乞と一うさ衣披はすありらも食非人小興くまきも  
 別小竹うさうさありと衣披まきまき人かくと苦只ゆ塚の如  
 尚との争多きといけわる彼錢鐘の時露草の所くまか  
 在るものもるの家なまづうらめてか系おさぎ並遊てか  
 一あくと頻りふ動化し昼夜けあさきといまきる程く  
 毎日く錢くと扱こまふ舞くせわ尚と信作の人進か加  
 へて世俗をり始終錢人小文と施とその瓜はりりんるふ  
 元米百八十俵金六十兩といわ尚の力とて施しあけわ尚半  
 くいふ物依を事なくと青浪のうけりてゆりの行もて  
 次法儀堅固の傍あきい法人とともに信作帰信して皆く

毎くの米錢と席附して錢人取救りせらるる三半露草よりほ  
 思ふ川舟の乗合由て露草のくくとい法しと梅角しあ  
 水が夫立の事まで書付ぬまきりゆ小露草、在肉、持し  
 て茶穀は心のあまして元米大富國の富らう故ふ人の心  
 温和せりかると仁慈のゆもあうりてとて

